



# コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

## リハビリナース増殖中 —入りのケースレポートより—



平塚裕香利

私は病気を診る事ももちろん、患者さんの生活に視点をのぞいたりハビリア看護に魅力を感じ当院へ就職し、また看護師として働きたい三年目になりました。

三年目の研修では、患者さんの事例をまとめ、改めて患者さんとの関わりを振り返る事に繋がりました。患者さんは、左視床出血から右片麻痺となり当院へリハビリの為に入院されました。食事、排泄、基本的な動作の向上と課題は



岡村 志穂

私は、病気が怪我で入院された患者様が「住み慣れた生活の場」へ戻るためのサポートをしている回復期リハビリテーション病棟に魅力を感じ、患者様や患者様の御家族へ何かできることはないだろうかと思いつき、この病院へ入職をして二年目になりました。

二年目の研修では自分の関わった患者様の事例検討を行いました。患者様は脳卒中後のリハビリで入院され、入院当初は鼻から管を入れて栄養の注入をしていました。日常生活の多くに介助を必要とする方でした。しかし、リハビリ

多くありましたが入院当初、リハビリ、看護介入に対し消極的な印象でした。会話の中で家族への思い、妻への愛情を感じる事ができ、家族が困る、家族の為にという患者さんの大切な思いを意欲に繋がられるような関わりをしていきました。一つの事が出来る

と患者さんと一緒に喜びを共有し、達成感や自己肯定感が増すような関わりを持つ事で、入院時より意欲的な発言や行動が見受けられるようになりました。現在は自宅へ退院され、当院の通所リハビリなど

を行っていくうちに、口から食事を食べられるようになり、起き上がりや車椅子への移乗も協働動作が得られるようになってきました。そして、笑顔で過ごされる時間が増えてきました。その姿を見て御家族も、もう一度自宅へ帰らせてあげたいと思ってくださるようになってきました。自宅の環境の見直しやサービスの選定を行い、在宅へと帰られました。今後も患者様や御家族の思いに寄り添い、住み慣れた生活の場へ戻る事が出来るようなサポートをしていきたいと思っております。

コープリハビリテーション病院 回復期リハビリテーション病棟 看護師 岡村 志穂



まだ起きられない発症早期からトイレ訓練は始まります。矢印の尿器を使えば次は起きてトイレへ行くリハビリです。



二度の脳卒中で鼻からチューブ、意思も通じず寝たきりから食事が出来出した頃。このあとも「家」を励みにリハビリはつづきます。



高木 美里 Aさんは突然の足が麻痺

し、起き上がることもできなくなり生活が一変しました。リハビリのために長期間の入院生活を余儀なくされました。先が見えず、何度も悔しい思いをされましたが、決して諦めずに努力を続けて来られました。時には職員が圧倒される場面もありましたが私達もAさんの思いに込めようとしてきました。

腕の力で身体を支えることができるようになりなんと自宅へ退院されました。自宅ではいざって移動する生活で自分が発揮され、自分の体と日々向き合い自分なりに筋トレを続けてこられました。

努力が実を結び、自宅内を歩けるまで回復されました。しかし、歩く際にどうしても足先が下がり、過度に膝を持上げないと歩けない状態でした。そこで医師からの勧めもあり、下肢装具を作成されました。

下肢装具は固すぎると上半身が揺れ、柔らかすぎるとつま先が床へ引っかけます。繊細

## 装具は人を変える

～寝たきりから歩けるまでに回復したAさん～



図2 留め金の工夫で手の力が弱くても自分でめられる

な調整は本人からのフィードバックを活かし、その都度変更しました(図1)。指先の動きがまだ弱く、留め金やベルト部分を工夫し、自分で脱着ができるようにしました(図2)。約1カ月を経て、完成に至りました。

装具をつけて歩くことで大きな変化がありました。装具をつけることで滑らかに足を運ぶことができ、長い距離を歩けるようになりました。このことはAさんに自信を取り戻し、歩けることが次のステップに繋がるものになりました。「装具は人を変える」と私達も実感することができました。

コープリハビリテーション病院 理学療法士 高木 美里



図1 本人のフィードバックを元に何度も調整を行う場面

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

### 早島支部健康まつり 「転けない体づくり」講師レポート



林田 和美 12月1日「早島支部健康まつり」に参加し、「転けない体づくり」というテーマで講義と転倒予防体操を実施させていただきました。

まず、体操前の血圧チェックの段階で普段の血圧と比較しながらその日の体調を確認する姿が見られ、皆さん

の健康への関心の高さが伺えました。次に、今回は体操の前に立位バランステスト（開眼片脚立位）を実施し、年齢別平均値とご自身の記録を比較してバランスチェックを行いました。

拍手が！  
転倒予防体操では、「転倒しやすい場所や場面」「転倒を防ぐ為の環境調整」についても話しながら皆さんと一緒に体操を行いました。終了後はお隣の席の方と普段の生活の様子を話し合ったり、転倒予防体操を振り返ったりしていました。参加者から、「楽しかった！」との感想を頂きました。



迫力負けしそうな早島支部の皆様の気合

### 恒例リハビリナース説明会

毎年恒例の看護学生対象の体験型講習「リハビリナース説明会」を今年も当院の回復期リハビリテーション病棟（回リハ）で開催しました。クリスマス連休の土曜日にも関わらず看護学校1年生9名が参加してくれました。

#### 「なりたい自分になる」を支援する看護

前半の実習ではリハビリナースが急性期病院と住まいとの架け橋を担うことを感じてもらいます。何故なら急性期の入院日数だけではもとの暮らしに戻れなかつたり、すでに高齢者は複数の病気を治らないまま

抱えています。そうして危機に瀕した生活を立て直すために患者さんは回リハにやってきました。まず「今の不自由を一緒に治しましょう」と対話しながら退院後の「暮らし」を考えます。その目的は「なりたい自分」をイメージしてもらうためです。その実現には病気の治療だけでは済まず患者さんの性格や家族関係、経済事情まで考慮することが必要です。これらを踏まえた上で看護計画を立てるのがリハビリナースなのです。

回リハの先輩たちと交流の後半は回リハで実績を積んだ指導ナースとお茶と



指導した先輩ナースに院長・総師長も加わり記念撮影。中にはケガをおして松葉杖参加の方も（左端が筆者）

キーキで交流会です。今回参加してくれた皆様は全員の社会人経験者だけに医療の先向きには真剣です。以前の職業の話から、なぜ看護師を目指すかなど楽しい

**ボランティア総会**

**3月27日水**

時間 **14:00~15:30**

場所 **コープリハビリテーション病院 2階会議室**

話題で盛り上がる一方で、迫力ある質問も飛び交いました。  
皆さんが就職を決めるのは2年後です。それまでに病院実習もひかえています。その実習と今回の説明会を通して進路を考えるとリハビリナースという選択肢が思い浮かんだらと願っています。

コープリハビリテーション病院 回復期リハビリテーション病棟 師長 山田小百合

**お問い合わせ先**  
倉敷医療生活協同組合  
コープリハビリテーション病院  
老人保健施設 老健あかね  
TEL 086-444-3212 (代表)  
受付時間 平日9:00~16:30  
土曜日9:00~12:00  
(日祝・年末年始を除く)

〒712-8057  
倉敷市水島東千鳥町1-60  
ホームページ  
http://coopreha.jp/  
メールアドレス  
info@coopreha.jp  
広報委員会  
発行責任者 笹舘 勝人

診療表							
コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]					老健あかね [086-446-6541]		
	外来	装具 外来	歯科	短時間 通所 リハビリ	短期集中 健祥アップ 教室	訪問 リハビリ	通所 リハビリ
診療時間	午前 9:00~ 12:30	14:30~ 15:00	午後	9:00~ 16:50	9:30~ 11:00		9:00~ 16:00
月				○	○	○	○
火	渡辺	○(予約制)	○(予約制)	○	○	○	○
水	飯塚			○	○	○	○
木	太田		○(予約制)	○	○	○	○
金	飯塚			○	○	○	○
土						○	○

  

医療福祉相談・連携室			
相談 受付時間	平日	9:00~12:00	13:30~16:30
	土曜日	9:00~12:00	
	日・祝日	休み	

### 新入職員紹介



老健あかね  
通所リハビリ 介護士  
塩本 有加



老健あかね  
通所リハビリ 介護福祉士  
金井 良子



コープリハビリテーション病院  
3階病棟 介護福祉士  
玉木 照彦



コープリハビリテーション病院  
事務課 事務  
吉満 恵理子

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。